

# 企業会計入門ノート

5

## 1. 企業資本計算の基礎

はじめに

企業経営を始めるに当たって、企業主は元手を出資する。この元手を狭い意味の資本または自己資本あるいは資本金という。企業は、企業主の出資の他に、いろいろな借入をすることが多い。これも広い意味で資本と認められるが、企業主の出資とは区別して、借入資本または他人資本という。

10

資本は通常、貨幣の形で企業に入ってくる。企業はこの貨幣を支出して設備・材料・労働力など生産に必要な手段を購入し、これを消費して製品を作り、販売して再び貨幣を取得するという一連のサイクルを繰り返す。

企業が、経営活動を行なうと、資産、負債、資本は増えたり減ったりして変化する。この変化をもたらすできごとを取引という。一定期間内の取引の結果を記録・計算・整理して、報告書にまとめることを企業会計という。記録の手続は、簿記、特に複式簿記の方法によって行なう。常に取引を（広い意味の）資本の二面的把握によってすすめるので、複式簿記という名前がつけられた。

15

企業はこのようにしてとらえた資本の動きを記録・整理して

- (1) どのような経営成績をあげたか（収益と費用）
- (2) 資本がどのような形になっているか（資本の構成と水準）

20

を内外の利害関係者に報告する。損益計算書（Profit & Loss Statement : P/L, ピーエル）と貸借対照表（Balance Sheet : B. S., ビーエス）とは、その代表的な報告書（財務諸表）である。

## 2. 企業の財政状態の把握

25

企業の財政状態を示す例として、企業主Aが自己の出資および借入金により事業を開始した場合を考えてみよう。

例題	11月1日 企業主Aは A株式会社を設立し、	
	借入金	60百万円
	自己資本	40百万円
	計	1 億円
の現金をもって事業を開始した。		

30

35